



茨城県の経済情勢報告

令和 8 年 1 月 29 日
財務省関東財務局水戸財務事務所

本件に関するお問い合わせ先

水戸財務事務所財務課

電話 029-221-3180

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、持ち直している」

項 目	前回（7 年 10 月判断）	今回（8 年 1 月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）8 年 1 月判断は、前回 7 年 10 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。生産活動は一進一退の状況にあり、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回（7 年 10 月判断）	今回（8 年 1 月判断）	前回比較
個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している	→
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	7 年度は増加見込みとなっている	7 年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	7 年度は減益見込みとなっている	7 年度は減益見込みとなっている	→
企業の景況感	「下降」超幅が縮小している	「上昇」超に転じている	↗
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
公共事業	前年を下回っている	前年を上回っている	↗

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している」

ホームセンター販売額が前年を下回っているものの、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、家電大型専門店販売額、ドラッグストア販売額は前年を上回っている。乗用車の新車登録届出数は、軽乗用車は前年並みであるものの、普通車、小型車は前年を下回っており、全体として前年を下回っている。このほか、飲食サービスなどは持ち直しの動きがみられる。

このように、個人消費を全体としてみると、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 物価高の継続により消費者には節約志向がみられており、買上げ点数は減少しているものの、値上げによる単価の上昇から売上げは増加している。(百貨店・スーパー)
- 気温の低下に伴い、コートなどの冬物重衣料を中心にマフラーや手袋といった防寒商材の売上げが伸長した。福袋の売上げも好調で、特に食料品や雑貨系など実用重視の商品が人気であった。(百貨店・スーパー)
- 既存OSのサポート終了に伴う駆け込み需要などを背景にパソコンの売上高は前年比1.5倍となっている。また、気温の低下に伴いエアコンや暖房器具の販売も好調である。(家電量販店)
- 11月以降、気温が低下したことからカイロやハンドクリームなどの季節商品の売上げが伸びたほか、風邪薬やうがい薬の需要が高まったことにより売上高は前年を上回っている。(ドラッグストア)
- 物価高を背景に消費者の生活防衛意識は継続して高い状態にあり、同じ商品群でもより安価な商品を選択する消費者が多くなっている。特に家具・インテリアはその傾向が顕著で、高価格帯の商品の売行きが鈍い。(ホームセンター)
- 新型車の投入やモデルチェンジの周期が伸びていることや、車体価格が上昇していることなどを背景に登録台数は前年を下回って推移している。(自動車販売)
- 仕入価格の上昇を受け価格改定を実施したが客離れはみられず、客単価が上昇したことで売上高は前年を上回っている。年末は忘年会利用が好調で、団体客の予約が増加している。(飲食サービス)
- リニューアルに伴い客室単価を上げているものの、ビジネス利用を中心に需要は旺盛で売上高は前年を上回っている。年末年始も満室の日があるなど好調であった。(宿泊)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

生産を業種別にみると、輸送機械は減少しているものの、食料品は横ばいで推移し、電気機械、生産用機械が増加しているなど、生産活動は一進一退の状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 海外向け需要がアジアを中心に弱い状況にあり、生産量は低水準となっている。(輸送機械)
- 物価高による買い控えなどの影響は受けておらず、生産量は前年と同水準で推移している。一方で、低価格帯の商品群の売行きが伸びており、生産量全体に占める割合が増加している。(食料品)
- 半導体需要の拡大を背景に、検査用装置や品質管理用装置などの関連装置の需要も増加しており、生産量が増加している。(電気機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は低下しており、新規求人数も減少しているものの、人手不足を背景に企業の採用意欲は高い状況にあり、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- パート・アルバイト社員において慢性的に人手不足の状態が続いている。時給を上げて求人を出しても応募が少なく苦戦している。(小売)
- 運転手の不足が続いていることから、定着率向上のために賃上げや休暇取得促進などの待遇改善に加え、コストをかけて採用活動の強化に取り組んでいる。(運輸)

■ 設備投資 「7年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 7年度の設備投資は、製造業では前年比9.4%の減少見込み、非製造業では同22.3%の増加見込みとなっており、全産業では同10.8%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「7年度は減益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 7年度の経常利益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)は、製造業では前年比19.2%の減益見込み、非製造業では同2.2%の増益見込みとなっており、全体では同6.6%の減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10-12月期

- 企業の景況判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「上昇」超に転じている。先行きについては、8年1~3月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家が前年を下回っているものの、分譲住宅が前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額をみると、前年を上回っている。

茨城県の経済情勢報告

資 料 編

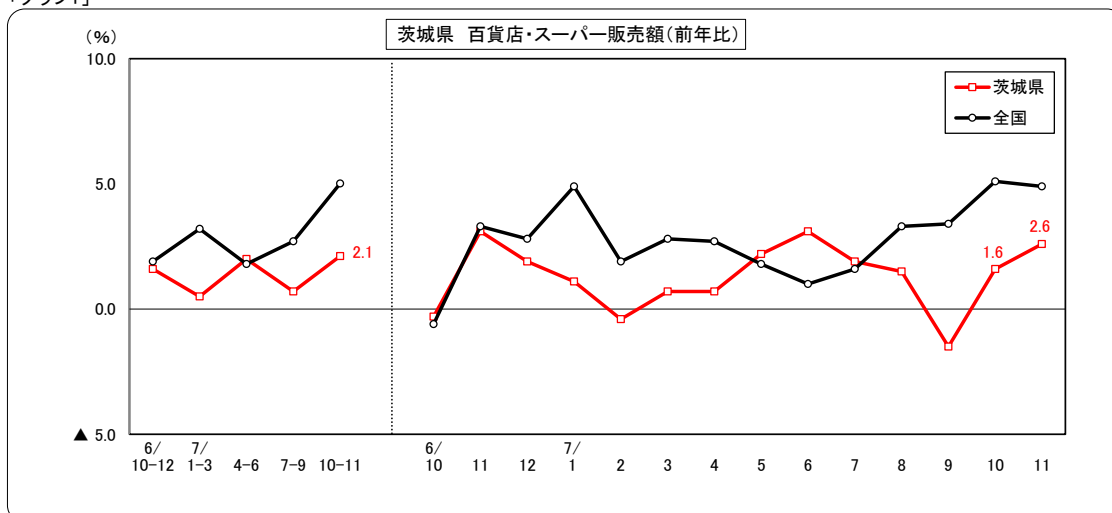
※掲載した経済指標等については速報値を含む。

1. 個人消費

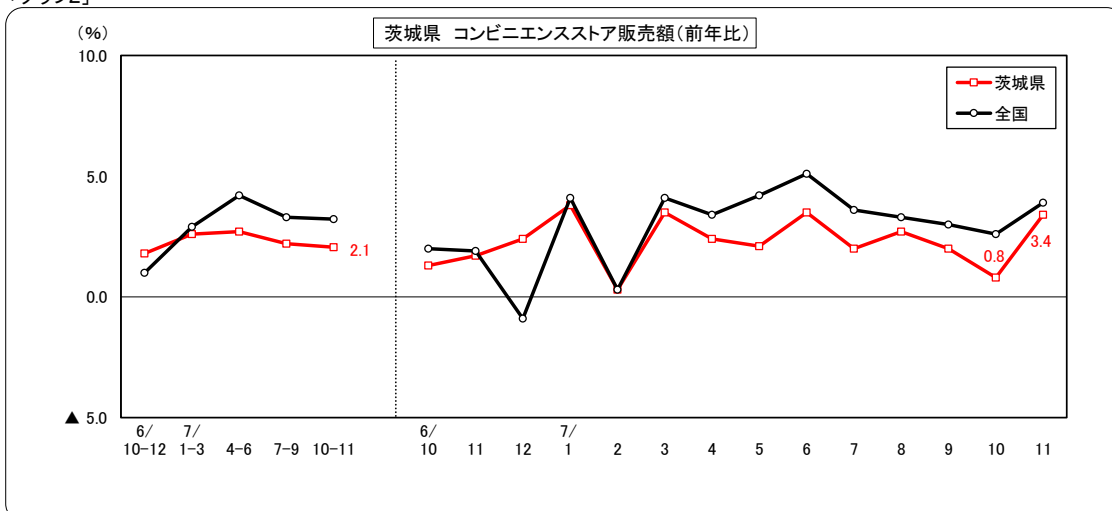
物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している



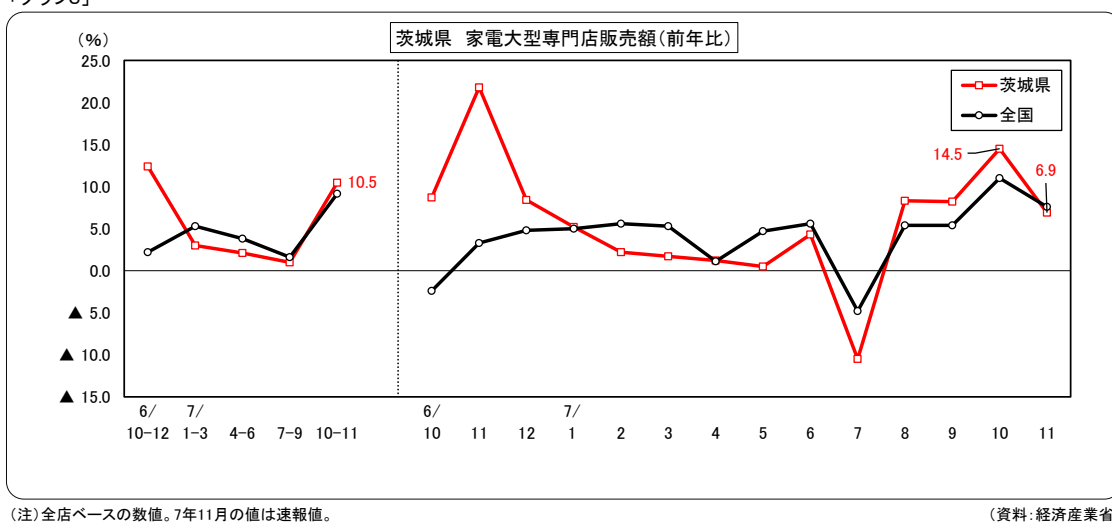
「グラフ1」



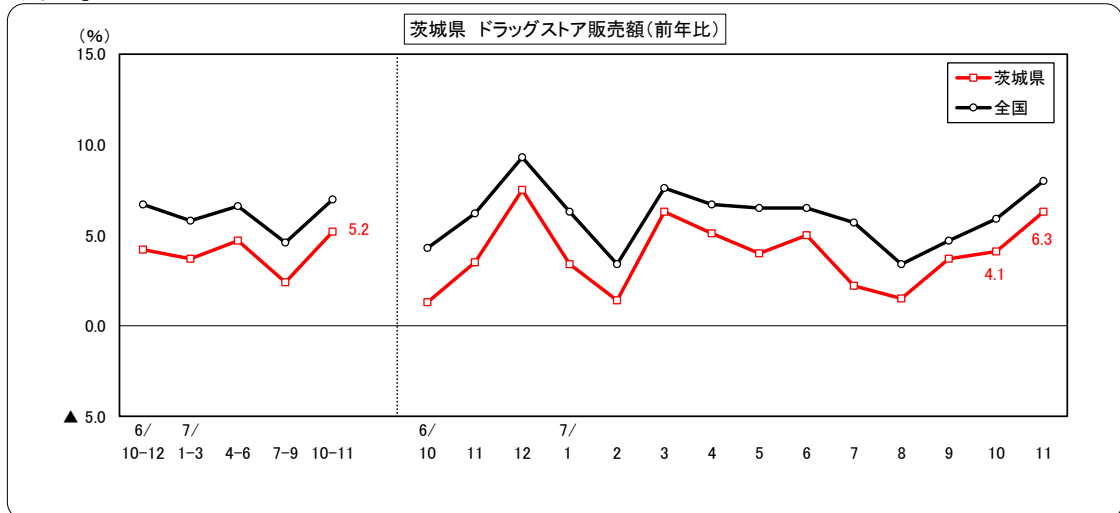
「グラフ2」



「グラフ3」



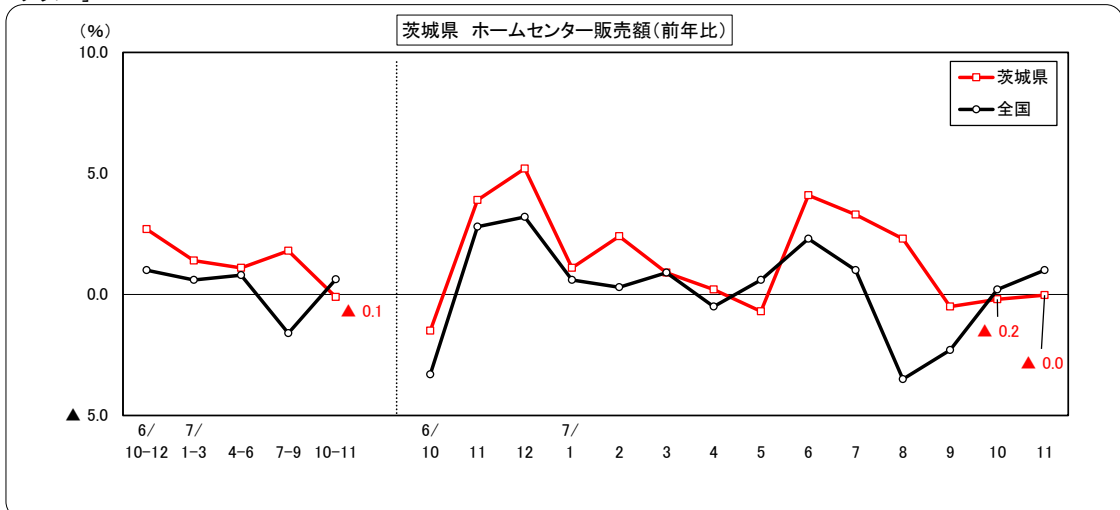
「グラフ4」



(注)全店ベースの数値。7年11月の値は速報値。

(資料:経済産業省)

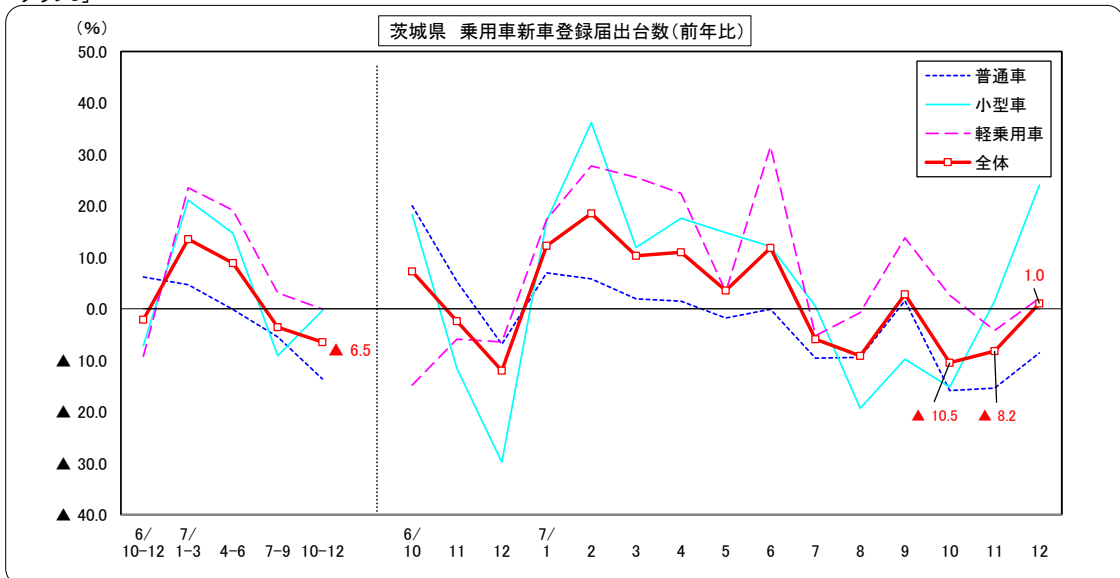
「グラフ5」



(注)全店ベースの数値。7年11月の値は速報値。

(資料:経済産業省)

「グラフ6」



(注)乗用車新車登録届出台数は、ナンバーベースで普通車・小型車・軽乗用車の合計。

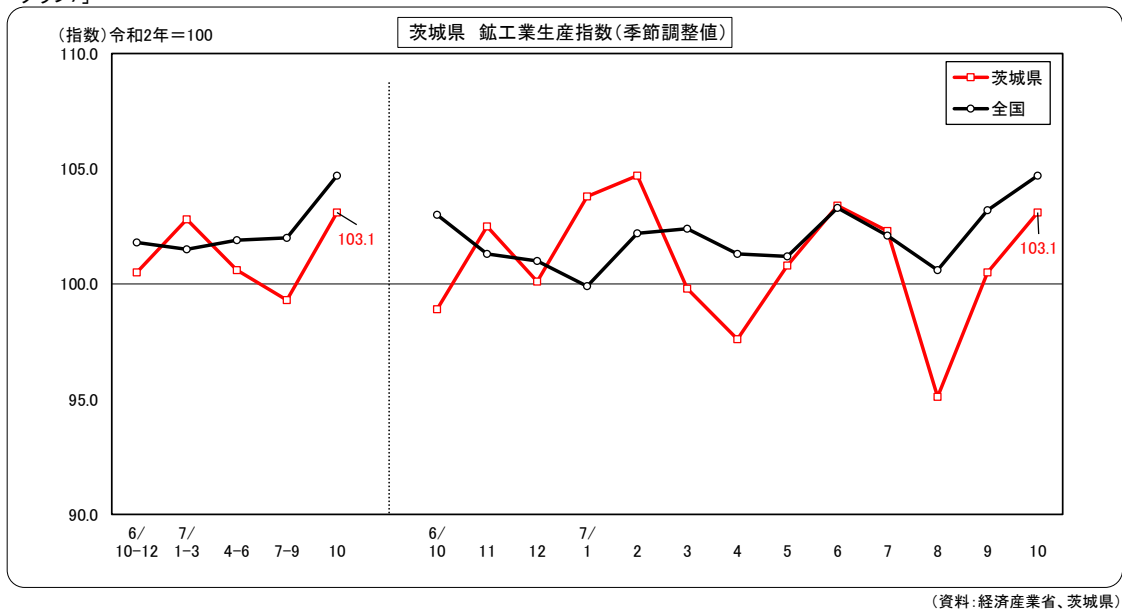
(資料:日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会)

2. 生産活動

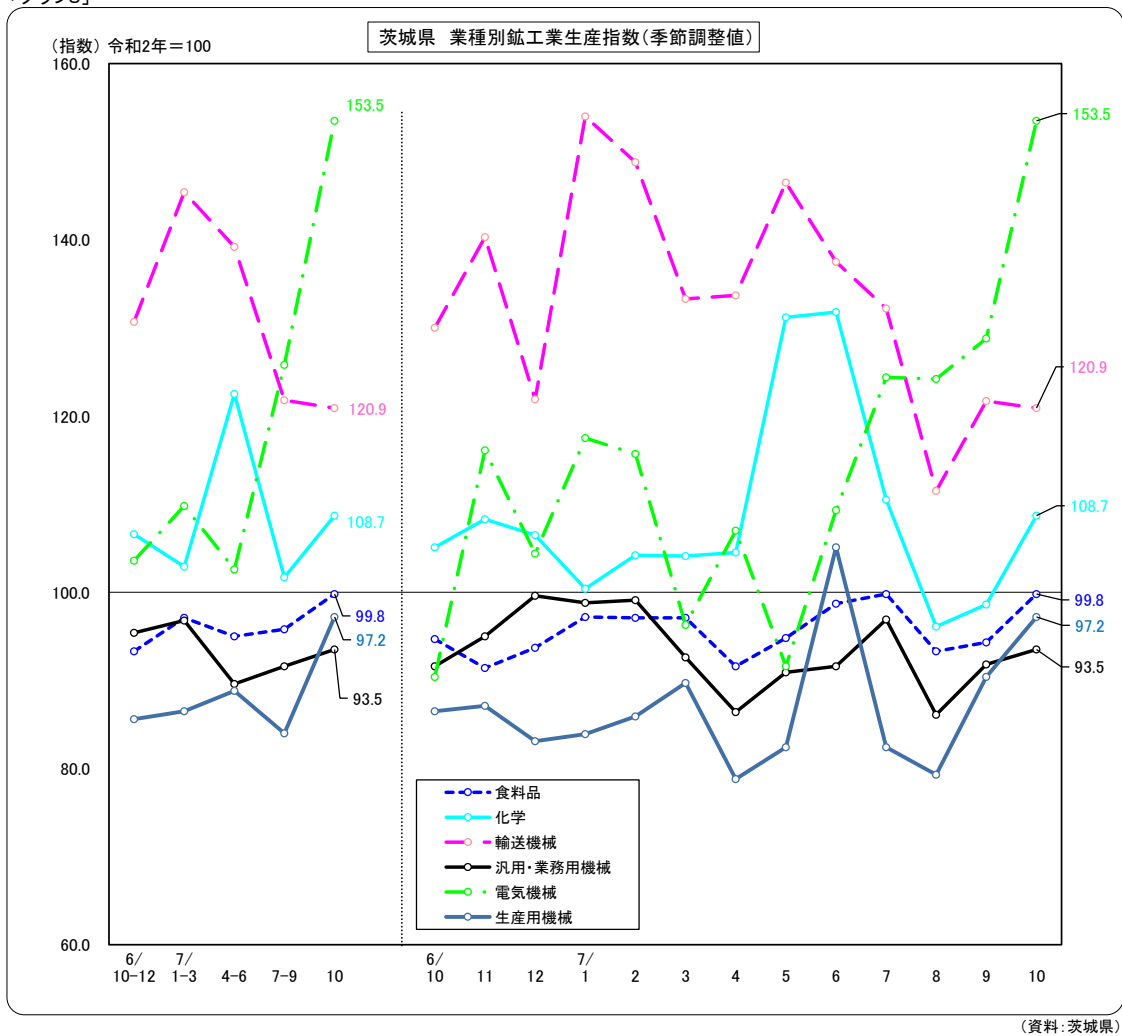
一進一退の状況にある



「グラフ7」



「グラフ8」

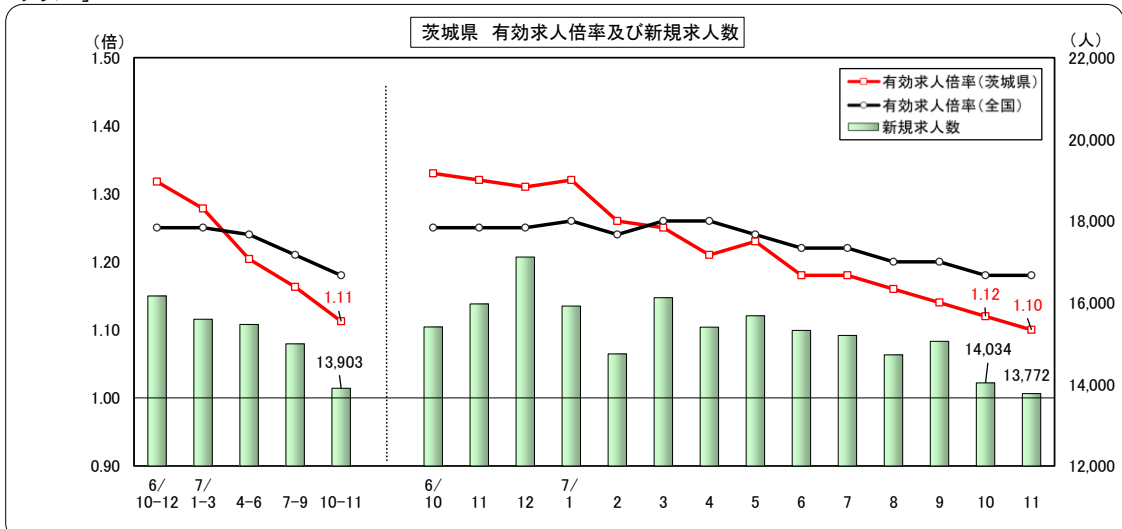


3. 雇用情勢

緩やかに持ち直している



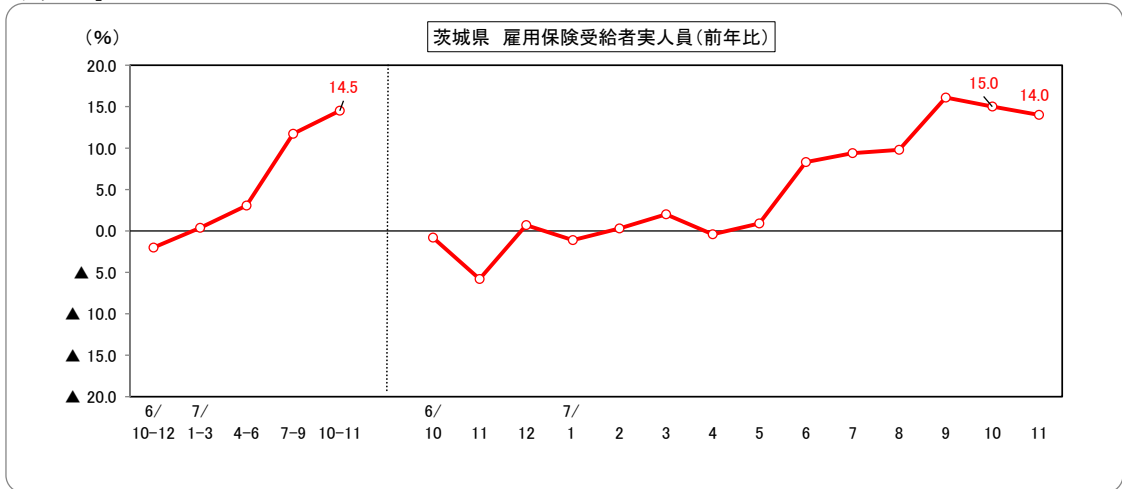
「グラフ9」



(注)パートタイムを含む季節調整値。新規求人数の四半期及び7年10-11月の値は月当たりの平均。

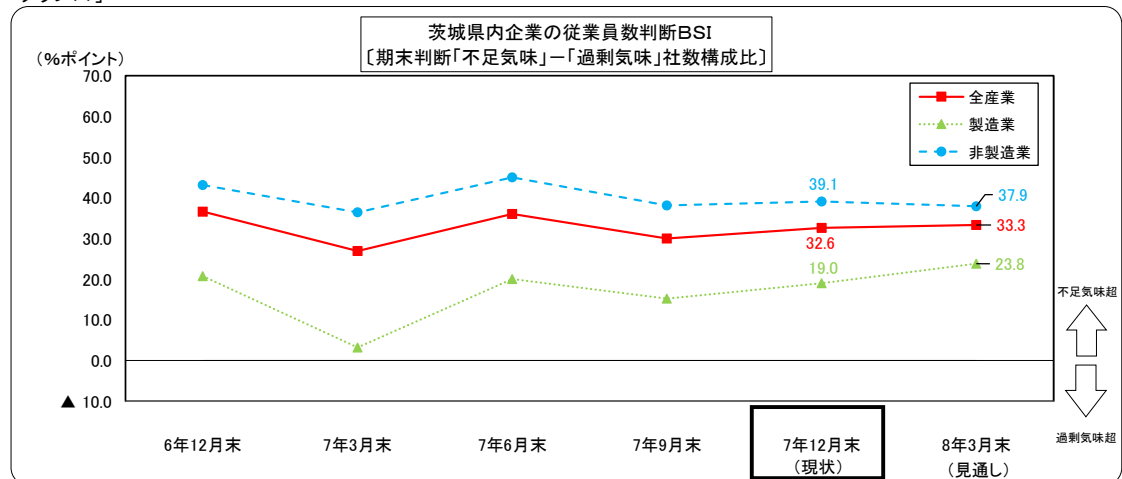
(資料:厚生労働省、茨城労働局)

「グラフ10」



(資料:茨城労働局)

「グラフ11」



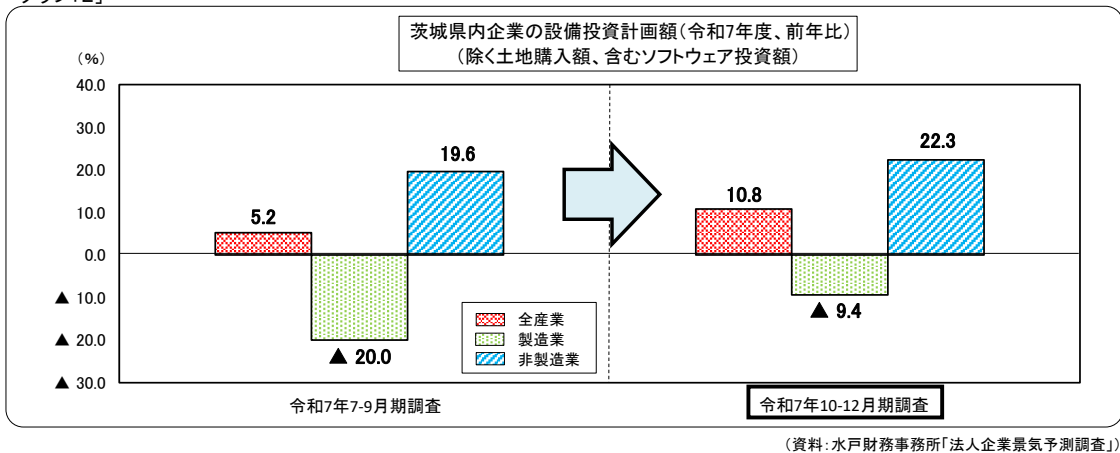
(資料:水戸財務事務所「法人企業景気予測調査」)

4. 設備投資

7年度は増加見込みとなっている



「グラフ12」

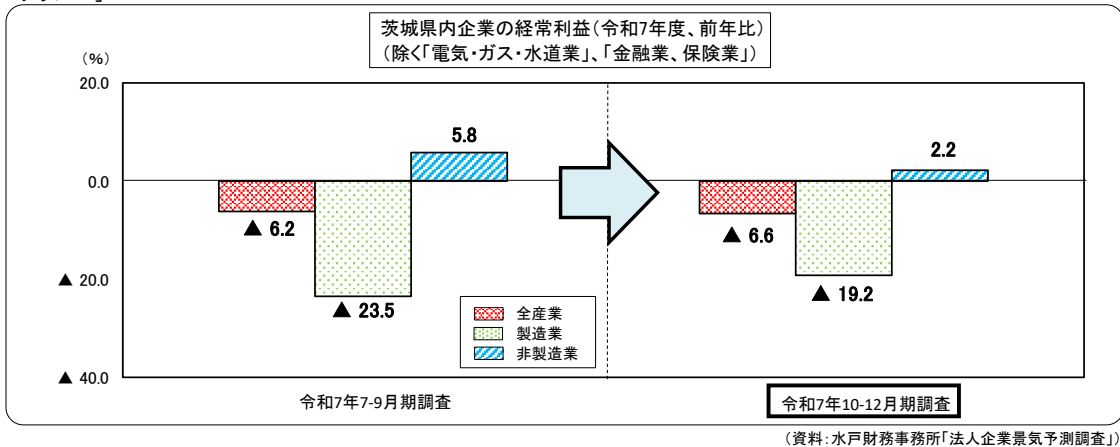


5. 企業収益

7年度は減益見込みとなっている



「グラフ13」

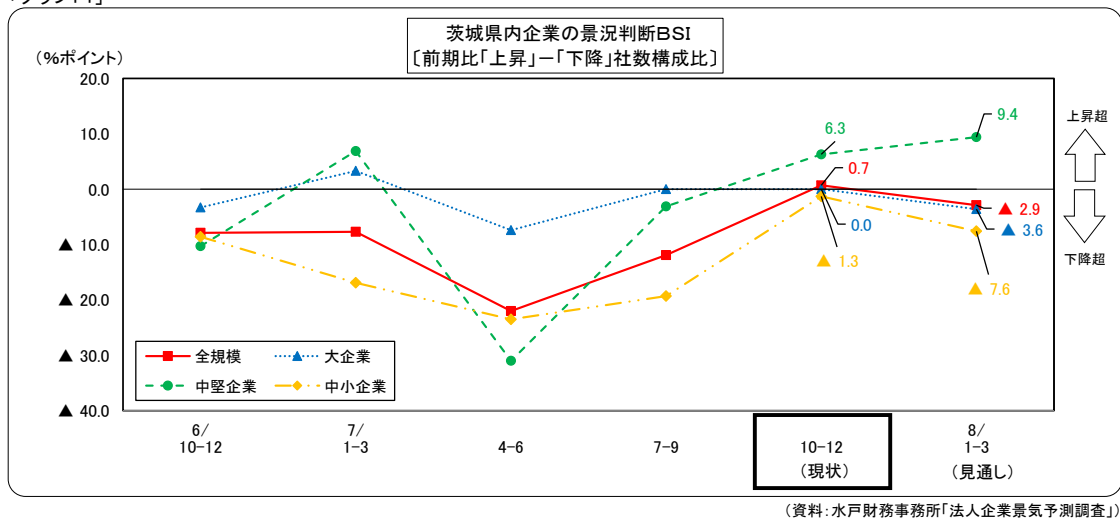


6. 景況感

「上昇」超に転じている



「グラフ14」

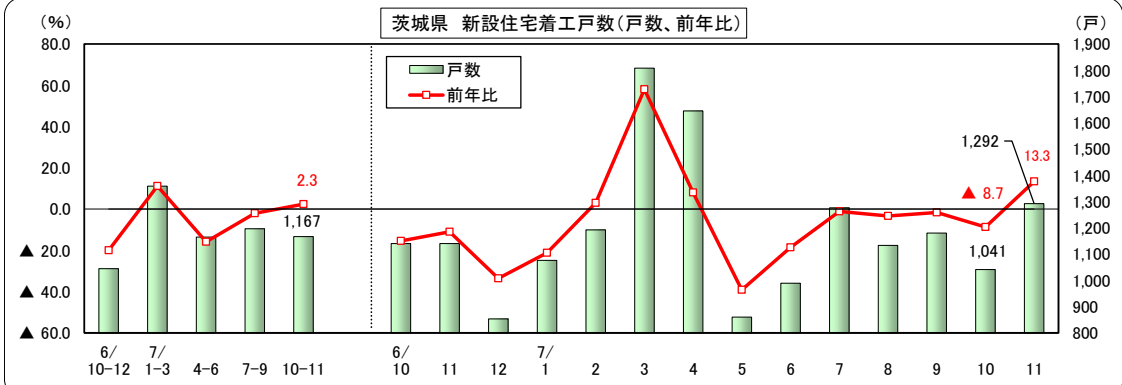


7. 住宅建設

前年を上回っている



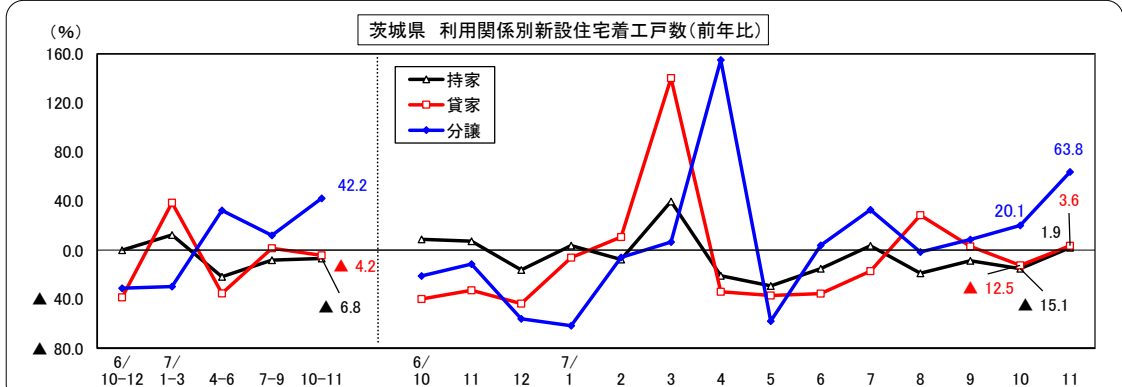
「グラフ15」



(注) 住宅着工戸数の四半期及び7年10-11月の値は月当たりの平均。

(資料: 国土交通省)

「グラフ16」



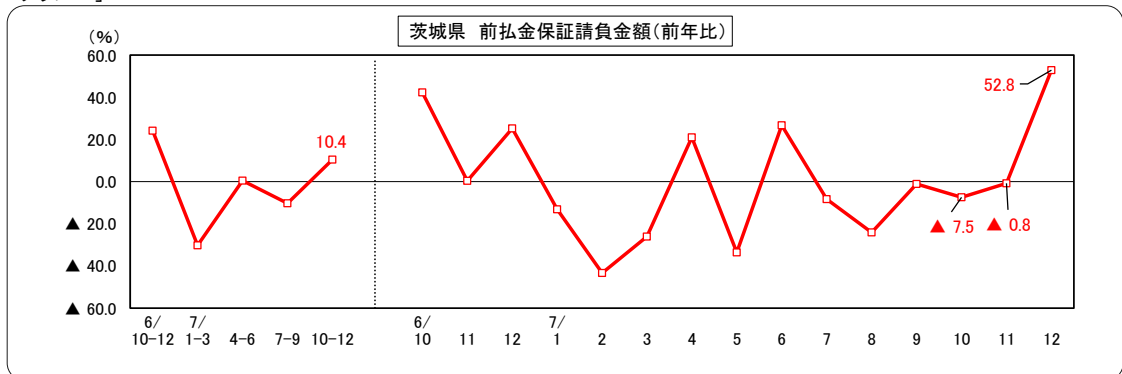
(資料: 国土交通省)

8. 公共事業

前年を上回っている



「グラフ17」

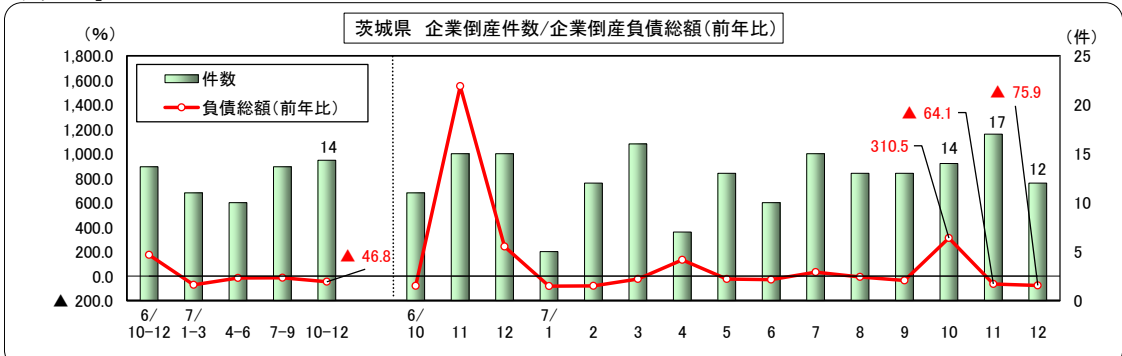


(資料: 北海道建設業信用保証㈱、東日本建設業保証㈱、西日本建設業保証㈱)

9. 企業倒産

件数は前年並みであり、負債総額は前年を下回っている

「グラフ18」



(注) 負債総額1千万円以上。企業倒産件数の四半期は月当たりの平均。

(資料: ㈱東京商工リサーチ)